

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
.理念に基づく運営	22
1.理念の共有	3
2.地域との支えあい	3
3.理念を実践するための制度の理解と活用	5
4.理念を実践するための体制	7
5.人材の育成と支援	4
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1.一人ひとりの把握	3
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作	3
3.多機能性を活かした柔軟な支援	1
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協	10
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1.その人らしい暮らしの支援	30
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
.サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容、事実があれば、それを含めて記入します。

【時に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指しま

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（1から 87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（88から 100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようにご注意ください。

事業所名	グループホーム大曲はなぞの 2号館
（ユニット名）	
所在地 （県・市町村名）	秋田県大仙市
記入者名 （管理者）	山内 幸
記入日	平成21年11月20日

自己評価票

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営				
1.理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	高齢になっても認知症になっても、人として尊ばれ、馴染み深い地域環境の中で自分らしく生活できる理念を作っている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のミーティング、月1回のケアカンファレンス、また問題解決の拠り所として、理念を共有し、活用している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームの行事、イベントに家族や地域の人々に呼びかけ、また、地域の行事、催し物にも参加し、相互理解を深めている。運営推進会議でもこの点をアピールするようにしている。		ホームの存在がかなり地域の中に浸透してきており、今後も地域・家族とのつながりを大切にし、利用者の生活の活力になるよう取り組んでいきたい。
2.地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームの職員は近隣の人々への挨拶を大切に、行事やイベントの折には親しく会話するなど、良い関係が出来ている。散歩中の人の中庭で休んだり、利用者に声をかけてくれる。野菜売りの方がホームの行事に参加したり、輪が広がっている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の一員として、町内から認められている。町内の自治会からは行事のたびに参加の呼びかけを頂いており、積極的に参加し、交流を深めている。		

グループホーム大曲はなぞの(2号館)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域貢献できれば良いと思うが、具体的な取り組みはない。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を理解し、客観性のある意見を尊重し、ホームの質の向上に活かすようにしている。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、運営推進会議にホームの生活状況を報告し、職員も勤務上の感想を述べる等して出席者から取り組みについての意見や評価をいただいて、運営の参考にしている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型事業所として、市町村との関係は重要と考えており、助言・指導を頂いて運営に活かしていく。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今年度は職員が1名研修を受けた。今後も交互に受講の機会を得ていきたい。		

グループホーム大曲はなぞの(2号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、行動制限マニュアルを作成するとともに、行動・言動上の虐待禁止の徹底を図っている。		
4.理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に一方的な説明に終わらないように留意して説明し、同意を得ている。特に介護への希望を聞くことにより、家族の不安解消に努めている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から利用者と家族的な関係を保ち、頼みごとや不安・要望を話せる雰囲気作りをしている。悩み相談室を設けたり、御意見箱を設置している。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時はもとより、毎月の請求書に添えて介護日誌、担当者コメント、広報『はなぞの日和』、管理者のメッセージでホーム内の様子を伝えている。		毎日の健康生活記録、2週間分を家族宛に送っているが、殆どの家族が熱心に読まれているので、引続き相互理解を得る為にも継続したい。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者苦情委員会を設けており、入居契約時にその所在を説明している他、運営推進会議の席でも出席の家族の意見、要望等を聞き、他、面会時にも同じ様にしている。		

グループホーム大曲はなぞの(2号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議席で運営に関して気付いた点、改善点などの意見交換をしている。年末には職員は1年を振り返りと新年への抱負、運営への要望を事業主に提出している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員は個々の生活事情によりシフト希望を出すことにより、比較的スムーズに勤務はなされている。また、利用者の状況変化への対応は、職員間の柔軟な調整で対応している。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	隣接しあう1・2号館の間の異動は、職員のマンネリ化、また介護体験の中を広げる意味で必要な場合もあり、常にイベントや行事でお互いに協力作業を行いながら面識を深め、利用者とも触れ合っていることにより、ダメージは最小限に抑えられている。		
5.人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験年数に応じ、研修に参加できるようにしている。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、地域グループホーム連絡会等開催の交流、勉強会、相互交換研修に参加し、学びあっている。		

グループホーム大曲はなぞの(2号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	1時間の休憩時間は自由行動を認めており、職員相互の交流、情報交換等に活用している。運営者は職員の心身の健康に配慮している。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員のここの貢献度を理解し、評価している。職員は年に1度、運営者に対して自己アピールの機会がある。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人及家族、担当ケアマネから話を聞き、何を望んでいるのか受け止めるように努めている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いを真摯に受け止めるように努めている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が何を求めてホームに入居を希望するに至ったかをよく聞き、支援に活かしている。		

グループホーム大曲はなぞの(2号館)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>26 馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ホームの生活に馴染むまでの時間を、管理者も職員も見守り、徐々に自分の生活を築いていけるように支援している。</p>		
<p>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
<p>27 本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>ホームの共同生活者という視点からお互いに教え、学び、支えあう家族的な人間関係作りを目指し、実践している。</p>		<p>毎月発送する健康生活日誌、担当者のコメント、写真広報は、家族から喜ばれており、今後も続けたい。</p>
<p>28 本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族が安心出来るように、ホームの生活の様子を知らせる工夫をしている。利用者と家族の絆を保つ配慮も大切にしている。</p>		
<p>29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>ホームで生活するようになってから本人と家族の関係が回復し、穏やかな会話が生まれるようになったり、ホームの行事と一緒に参加し、家族の絆が保たれる等の役割を果たしている。</p>		
<p>30 馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族、友人が自由に面会に来たり、外出することにより、関係が継続されている。</p>		

グループホーム大曲はなぞの(2号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の性格や気持ち、認知症症状等を把握して、囑託やお茶の席、作業の方法を考えている。レクリエーションを通して利用者同士の和が生じるように支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホームで看取った方の家族は、その後も時々訪問してくださり、職員・利用者との交流を続けており、今後も家族OBとして運営推進会議への参加を希望している。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1.一人ひとりの把握</p>				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中から利用者の気持ちを汲み取り、希望に添えるように努めている。そのためにも毎日のミーティングを大切にしている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居するまでの生活の様子を、できるだけ把握して、ホームの生活支援に生かせるように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のミーティングや情報交換から、ここの生活の様子や変化に気づき、総合的に把握に努めている。		

グループホーム大曲はなぞの(2号館)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時の家族の要望を念頭に、毎日のミーティング、毎月のケア会議において、長期・短期目標について話し合い、介護計画を作成し、利用者本位に叶っているか検討している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的見直しのほか、変化による見直しを行い、現状に即した介護計画に基づいたケアが出来るよう、家族の意見と同意を求めながら作成している。</p>	
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>午前、午後、夜間、特変時の様子を個別に記録して、介護計画の見直しに役立てている。</p>	<p>入居者様の言動や行動を記録に残し、職員間での情報共有に努めている。</p>
3.多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>ホームの利点として自由行動があり、家族と温泉に外出する利用者もいる。天候や状況に臨機応変に対応して、外食やドライブを実践し、生活に潤いをもたらす。お盆・年末年始の外出・外泊も希望に応じている。</p>	
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している</p>	<p>町内会への参加、その行事や役割分担へ参加している。また、ホーム内の行事や慰問へ、地域の方やボランティアの参加があり、幅広い交流が出来ている。かかりつけ医の協力にて、予防接種がスムーズに行えている。</p>	

グループホーム大曲はなぞの(2号館)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用するための支援は今のところしていない。図書館利用、ボランティア利用は活発にしている。		必要がある場合は柔軟に対応していきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	他の居宅事業所と同様の利用者の紹介があったり、ケアマネ通信配布をして頂く。利用者のことで悩みの相談先として認識している。		
43 かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅と同様のかかりつけ医にて対応しているが、希望があれば往診の医院にて対応している。		在宅受診は、可能であれば御家族様の協力をお願いしている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域に認知症状へ対応する医療機関があり、定期的に通院してる方や、状態悪化にて受診する事も出来ている。		症状の変化に合わせて情報交換や受診をして症状の安定に努めていきたい。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	非常勤で看護職員が勤務し、入居者様の状態報告やバイタルチェック等の対応をしている。		入居者様の状態にあわせ、随時看護職との連携に努めていく。

グループホーム大曲はなぞの(2号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入居時には医療機関や御家族様との情報交換で早期退院できるかの確認を行うようにしている。</p>		<p>入院が必要となったときは、医療危険へ適切な情報を提供し、入院中の状況も随時確認するように努めていく。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>該当するケースの家族、担当医と今後の方針について情報交換をしながらすすめていくようにしている。</p>		<p>出来る限りその人らしく過ごせるよう、入居者様、御家族様の意向を踏まえて方向性を検討していく</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>現時点で終末期における事例はない。十度かの場合は御本人や御家族様の意向を踏まえ、医療・看護・介護が連携してケアを進めていくようにしている。</p>		<p>ケースごとによく検討をし、御本人様、御家族様の意向に添えるよう取組んでいきたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>次の転居左記へは御家族様の許可を得て、出来る限り情報交換を行い、生活の継続性を保てるようにしている。</p>		<p>今後も住み替え画ある場合は、他施設や居宅マネージャーとの情報交換を行えるように努めていく。</p>

グループホーム大曲はなぞの(2号館)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>入居者様一人一人にあわせたサービスを行い、言葉遣いや接し方に気を付けている。</p>	<p>認知症についての理解、対応等についての知識を深めていく。個人情報の取り扱いについては細心の注意を払っていく。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>入居者様の意思表示を大切にし、また、声かけを行い、思いや希望が叶うように支援している。</p>	<p>外出や食べたいものの声に対し、ドライブや外出等を実施している。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者さま個々の、その日の気分や体調を見極めたくうえで、声かけ等で確認しながら援助している。</p>	<p>食事やお茶に時間以外は入居者様個々のペースを大切にし、援助するようにしている。</p>
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>御本人、御家族様の意向により、市内や行きつけの理・美容院へ出かけたり、出張理容を利用して。場合によっては職員が対応している。</p>	<p>外出やイベント時には身だしなみに気を遣い、化粧をしてこられる方がいる。身だしなみには、自分の家族という思いで気配りしていく。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>季節に合った献立や郷土食を取り入れて職員が献立票を作成し、状況みて内容を変更している。食事の準備や盛り付け、後片付けを入居者さまと会話しながら一緒に行っている。</p>	<p>個々の健康状態にあった献立作りにも努めていく。分量等も配慮していく。</p>

グループホーム大曲はなぞの(2号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お茶や牛乳、ヤクルトとほぼ固定した飲み物の提供となっているが、摂取状況を見て個別に変更して対応もしている。おやつは御家族様の差入や手作りおやつも取り入れ、喜ばれている。		個々の体調をみながら、出来る限り指向を取り入れた提供をしていきたい
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	一人一人の排泄パターンが違う為、介助を要する方へは行動や仕草を観察し、声かけや誘導にて排泄を促している。		ここの排泄パターンにあわせた適切な声かけ、誘導を心掛けていく。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯はほぼ固定化しているが、御本人様のペースや訴えに沿う援助を心掛けている。		出来る限り希望に添った援助を努めていきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は散歩や活動をすることで、生活リズムを整えられるよう援助している。体調や希望を考慮し、ここにあった休息ができるよう支援している。		生活習慣を把握した上で、休息や安眠が出来るよう観察・記録しながら支援していく。必要時はかかりつけ医へ相談していく。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者さま個々の能力を発揮できる場面作りをしている。また、感謝の言葉も忘れずに伝えている。		身体能力面での考慮をしながら、得意分野を継続していけるよう援助していきたい。

グループホーム大曲はなぞの(2号館)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が可能な方は自室にて保管し、買物時に支払をしている。多額の現金は持ち込まないようにしてもらっている。		現金でのトラブルとならないよう、御家族様への説明や、現金持込時の確認を徹底していく。
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周囲の景色や近所の庭、畑等を眺めたり、散歩をする為に外出する方がいる。状況を見て職員が見守りや付き添いにて対応している。		一人一人の希望に添った外出支援を継続していきたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠出はしていないが、近場の図書館へ出かけたり、自宅への外出・外泊を御家族様の協力を得て支援している。		入居者さまの要望に添えるような外出支援をしていきたい。また、御家族様の協力のもとに外出・外泊の支援も継続していきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば対応している。訴えの内容によっては職員が仲介することで対応している。		必要に応じて御家族様等と連携をとり、支援していきたい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に立ち寄りいただける様に声をかけをし、訪問時はお茶を提供したり、状況によっては食事を一緒にとっていただける様に配慮している。		御家族様へは毎月のホーム便りで近況を報告するとともに、イベント等への参加も呼びかけて訪問していただく機会を多く作っていきたい。

グループホーム大曲はなぞの(2号館)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	見守りケアを重視し、身体拘束しないことを申し合わせている。	出来る限り身体拘束をしないよう、職員間での「報・連・相」と、行動観察を徹底していく。
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている</p>	夜間・早朝の時間帯を除いて、玄関や窓にかぎをかけないようにしている。	日中は見守りケアにて開放されたホーム作りをしていく。
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	入居者一人ひとりの動きに目配りしながら動き、状況に応じて報告をしている。夜間は些細な音でも聞こえるよう、各居室の戸を少しあけている。	日中の見守りケアに加え、夜間の見守り重視、必要に応じてセンサー等に使用を検討している。
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	薬品類は施錠のあるロッカーにて保管し、洗剤や刃物等は入居者さまの目の届きにくい場所へ保管している。	職員の見守り可能な場で、ハサミ、包丁、針等を使用する作業が出来るよう援助していく。
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	入居者様一人一人の行動パターンを把握し、見守り・介助をしている。発生時是对応・報告等のマニュアルを定めている。	事故に備えた火災訓練を消防署の指導のもとに実施し、併せて緊急時の警備会社とのシステム契約にて事故防止に努めていく。

グループホーム大曲はなぞの(2号館)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	急変時の対応マニュアルを事務室内へ貼りだしている。また、消防署員指導の下で、救命処置の講習会も取り入れている。		緊急時対応マニュアル、救命措置の定期的な研修に取り組んでいく。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者のもと、消防署の立会により訓練をしている。また、地域の方へも声をかけて参加していただいている。		訓練時の地域住民の方への参加を多く呼びかけて協力してもらえるように努めていく。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	ケアプランの検討に併せて、各々の御家族様との話し合いをすると共に、必要時は随時リスクについて説明している。		面会やケアプラン作成時にご家族様とリスクについて共有出来るよう、出来る限り話し合いの機会を持つように努めていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックと、病状や急変時に合わせたバイタルチェック、食事・水分・排泄状況の把握をして、日常の健康管理をして異変へ早期に対応出来るようにしている。		定期的な健康チェックと共に、心身の状況や御本人の訴えに留意していく。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを個々に用意し、服薬状況や変更内容を確認しやすくしている。内服変工事は日誌へ記入して申し送りをし、観察と変化時は医師へ相談するようにしている。		内服薬の管理徹底と、正しい服用をするよう注意を払っていく。また、かかりつけ医との連携に努めていく。

グループホーム大曲はなぞの(2号館)


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝野菜ジュースを提供するとともに、十分な水分量を摂っていただくよう、食事やオヤツ時に水分を必ずすすめている。		散歩や運動の活動を多く取り入れ、食事等での調整も行い、出来る限り内服でのコントロールが減らせるよう努めていく。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きやうがい、義歯の手入れの出来ない方へは介助・支援をしている。また、毎年1回の協力病院の往診による歯科検診と、治療を要する場合は通院の支援をしている。		それぞれの状況にあわせたケアを徹底していく。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	地域や季節の食材、栄養のバランスに配慮した献立作り、入居者さま個々の食事形態に留意して提供している。		体調の変化に合わせた食事提供や個々の栄養バランスにも注意を払っていく。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	毎日の手洗い、うがいの励行、手摺、トイレ、テーブルのハイターでの消毒を実施している。感染症に対する研修会への参加もして、予防に努めている。		インフルエンザ予防接種の実施を入居者さまと同様職員も併せて実施していくようにしている。外出後、排泄後、調理作業前の手洗い、うがい等の徹底に努めている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	週3回程に分けて食材を使いきれる分量で購入している。布巾は毎食後、消毒・洗濯をしている。定期的に冷蔵庫や台所内各部分の掃除を行っている。		新鮮な食材を購入し使用するよう努めている。台所の衛生面に注意を払い、調理前の手洗いを励行している。

グループホーム大曲はなぞの(2号館)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>玄関に観葉植物や飾り物を設置したり、玄関近くにプランターの花を配置している。</p>	<p>季節に合わせた鼻や野菜作りを入居者様と共に取り組むようにしていきたい。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的な生活をしていただけるよう、絵画、草花、時計、カレンダーを各共用スペースに配置している。</p>	<p>各共有空間の、その場にふさわしい環境づくりを心掛けていきたい。</p>
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールや廊下にソファを設置しており、食後の休憩場所や入居者さま同士での会話の場となっている。</p>	<p>状況に応じて、居心地の良い環境づくりの検討や変更をしていきたい。</p>
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの家具や家族、行事の写真等、好みのものをそれぞれに配置、貼りだしをしている。</p>	<p>御本人や御家族様の意向に添いながら、居心地よい空間づくりをしていきたい。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>全個室とホール、脱水所、事務室へ温度湿度計を設置し、毎朝測定、記入している。換気扇は常時作動させ、必要時は窓での換気も行っている。</p>	<p>温度・湿度計を活用しながら、冷暖房の調整や換気に努めたい。</p>

グループホーム大曲はなぞの(2号館)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム全体がバリアフリーとなっており、玄関・廊下・ホール・トイレへ手摺、浴室へ補助器具を取り付けている。</p>	<p>バリアフリー設計のため、入居者様一人一人の見守りケアを重視し、自立支援に努めていきたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>入居者さまの認識しやすい言葉や目線に合わせた場所へトイレの貼り紙をしている。居室の入口へは個々の表札を設置している。</p>	<p>入居者さまが混乱することなく生活出来るよう、必要時は貼り紙や目印の検討をしていく。</p>
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ユニットの中間の庭に、花壇と東屋風のスペースを確保しており、合同で鼻や野菜を育てたり、芋煮会等の行事、散歩コースとして入居者様や地域の方々の交流の場となっている。</p>	<p>春から秋にかけ、庭の花壇に花や野菜を絶やさず育てて収穫している。ホーム内や地域の方を和ませる雰囲気図栗をしていきたい。</p>

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

グループホーム大曲はなぞの(2号館)

.サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホーム大曲はなぞの (2号館)

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

中庭に造られたパーゴラは、1・2号館共有の憩いの場であり、近所の人にも利用される。

2号館2Fの多目的ホールは、地域の人とホームの交流の場として役割を果たしている。歌声喫茶は利用者、地域の皆に好評で、地域の人にも計画の段階から参加してもらえるよう、今後大事に育てて生きたい計画である。

ホーム後方が全国花火大会の会場で、利用者、家族、地域に開放し、楽しんでもらっている。